学習指導案（視聴覚教材）

１　単元名　大単元　法の働きと私たち　　　　中単元　国民の司法参加

小単元　刑事司法と司法参加の意義　－刑事模擬裁判をやってみよう－

２　本時のねらい

刑事模擬裁判を体験することにより、法の意義や役割、司法参加の意義への理解を深め、権利や自由が保障、実現されることや社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。

３　本時の指導過程（本時での評価の観点：思考・判断・表現）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段階 | ねらい・学習活動等 | 指導上の留意点 |
|
| 導入  約10分 | 刑事裁判  ・教員説明又はＶＴＲ視聴  刑事手続の流れ  ・教員説明又はＶＴＲ視聴  刑事裁判のルール 被告人の権利  ・教員説明又はＶＴＲ視聴  ・「無罪推定の原則」「証拠裁判主義」「黙秘権」について、それぞれの存在理由を討議する。 | これまでの学習内容と重複する場合は、確認する程度でもよい。  これらの諸権利が認められなかった場合、どのような問題につながるかを被告人の立場で考える。 |
| 展開  約35分 | 冒頭手続  ・ＶＴＲ視聴（又はシナリオ朗読）  ・有罪の立証のために、又は無罪とするためにどのような証拠とその解釈が必要か議論する。  証拠調べ手続  ・ＶＴＲ視聴（又はシナリオ朗読）  ・ワークシート  論告・弁論・最終陳述  ・ワークシート  生徒が検察官、弁護人それぞれの役割に分かれて作成  する。班を作り、班の中で自分の担当した役割に沿っ  て論告・弁論を行う。  代表生徒一人ずつが、生徒全体を裁判員に見立てて論  告・弁論を行う。 | メモを取りながら視聴するよう促す。  間接証拠の積み重ねでも有罪が立証できることを確認する。  ※生徒の理解状況に応じて、適宜補足説明する。  証拠に基づく主張を行う。異なる立場の意見にも耳を傾けつつ冷静に議論し、多角的に検討する。  結論を根拠とともに説明する。 |
| まとめ  約５分 | 検討のポイント  ・本公判の判決を考えるに当たってのポイントを、スライド資料を用いて話し合いながら考察する。 | 適宜ヒントを与え、検察官・弁護人双方の視点からのポイントを確認する。 |
|  | ・考え方の参考のため「専門家からのメッセージ」を紹介する。 |  |
|  | ・裁判員の立場で判決とその判断の理由を提出する課題を課し、提出方法を連絡する。 |  |

ＶＴＲ視聴の場合、適宜途中で止めながら、教員からの問いの設定があると効果的である。

４　資料　ワークシート、証拠書類（証拠番号１～５）、スライド資料

５　単元の評価基準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 司法に関わる考え方について、基本的な知識を習得する。 | 司法制度と人権擁護との結びつきを見いだし、各立場に立脚して自らの論旨を構築する。  証拠に基づき客観的に判断する。 | 自己の主張をわかりやすく伝え、他者の意見に耳を傾ける。自分なりの視点で論旨を構築しようとする。 |

学習指導案（視聴覚教材）

１　単元名　大単元　法の働きと私たち　　　　中単元　国民の司法参加

小単元　刑事司法と司法参加の意義　－刑事模擬裁判をやってみよう－

２　本時のねらい

刑事模擬裁判を体験することにより、法の意義や役割、司法参加の意義への理解を深め、権利や自由が保障、実現されることや社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。

３　本時の指導過程（本時での評価の観点：思考・判断・表現）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段階 | ねらい・学習活動等 | 指導上の留意点 |
|
| 導入  約10分 | 刑事裁判  ・教員説明又はＶＴＲ視聴  刑事手続の流れ  ・教員説明又はＶＴＲ視聴  刑事裁判のルール 被告人の権利  ・教員説明又はＶＴＲ視聴  ・「無罪推定の原則」「証拠裁判主義」「黙秘権」について、それぞれの存在理由を討議する。 | これまでの学習内容と重複する場合は、確認する程度でもよい。  これらの諸権利が認められなかった場合、どのような問題につながるかを被告人の立場で考える。 |
| 展開  約35分 | 冒頭手続  ・ＶＴＲ視聴（又はシナリオ朗読）  ・有罪の立証のために、又は無罪とするためにどのような証拠とその解釈が必要か議論する。  証拠調べ手続  ・ＶＴＲ視聴（又はシナリオ朗読）  ・ワークシート  論告・弁論・最終陳述  ・ＶＴＲ視聴（又はシナリオ朗読）  ・ワークシート  ［判決］  ・奇数人数による班を作り、裁判員としてどのように判断するかを議論した上で、班としての結論を出す。  ・班の結論を、判断の理由を説明しながら発表する。 | メモを取りながら視聴するよう促す。  間接証拠の積み重ねでも有罪が立証できることを確認する。  ※生徒の理解状況に応じて、適宜  補足説明する。  証拠に基づく主張を行う。異なる立場の意見にも耳を傾けつつ冷静に議論し、多角的に検討する。  結論を根拠とともに説明する。 |
| まとめ  約５分 | 検討のポイント  ・本公判の判決を考えるに当たってのポイントを、スライド資料を用いて振り返る。 | 適宜ヒントを与え、検察官・弁護人双方の視点からのポイントを確認する。 |
|  | ・考え方の参考のため「専門家からのメッセージ」を紹介する。 |  |
|  | ・感想提出の方法を連絡する。（ワークシート/オンライン） |  |

ＶＴＲ視聴の場合、適宜途中で止めながら、教員からの問いの設定があると効果的である。

４　資料　ワークシート、証拠書類（証拠番号１～５）、スライド資料

５　単元の評価基準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 司法に関わる考え方について、基本的な知識を習得する。 | 司法制度と人権擁護との結びつきを見いだし、各立場に立脚して自らの論旨を構築する。  証拠に基づき客観的に判断する。 | 自己の主張をわかりやすく伝え、他者の意見に耳を傾ける。自分なりの視点で論旨を構築しようとする。 |